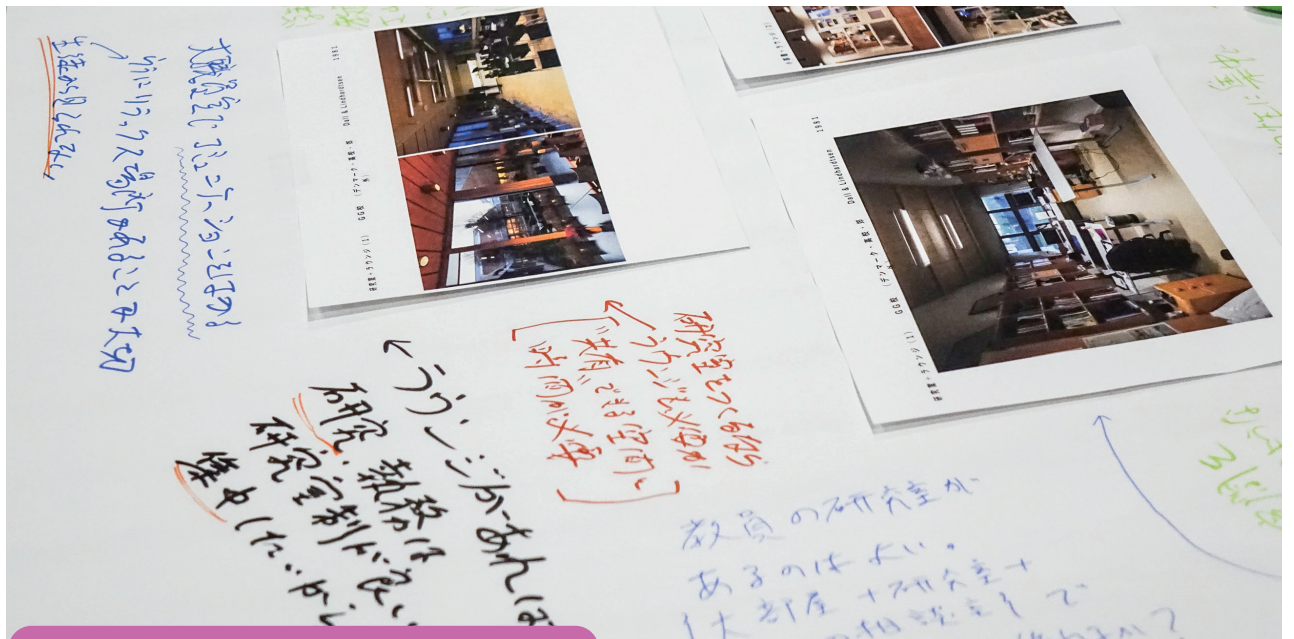


Thinking&Talking about New High-School!

プレワークショップ「先生ワークショップ①」  
空間の使われ方編

先生



↑「教員ラウンジ」への先生方の反応、書き込み

●参加者  
伊那北・弥生ヶ丘在籍の先生方39名  
+JVチーム7名 合計46名

2/16 (金) 【先生プレワークショップ①】

17:00-18:00 伊那北高校 同窓会館

●講師：立花美緒（神奈川大学 建築学部 准教授）

全2回開催の先生方向けのプレワークショップ。初回は「空間の使い方」について具体事例のインプットを行うことで、新校に対するイメージの「目線合わせ」を意図している。

学校計画の専門家である講師・立花氏によるスライドから数葉の写真を各テーブルに配置し、そのイメージから連想的に記述していく形式をグループワークでは用いた。伊那北・弥生ヶ丘両校から、想定以上の多くの先生方の参加があった。

●目的・趣旨

具体事例で示された空間の使い方を、共有・話し合うことで、先生方それぞれが生徒や自らの「居場所」「空間のあり方」などに対して、期待や矛盾などを感じながら、必要なスペースの優先順位を考えるきっかけになる。

- いかにもカッコいい建築的ビジュアルから離れて、実際に「(もう既に) このように、実現され、使われている空間事例」からの刺激と個々の反応を共有する
- ワークショップによるアイデア創出のプロセス体験



●当日のフロー

1. 現状のスケジュールシェア

・瀧内より本日のプレWSの位置付けと、目的の説明

2. 立花先生のお話

●立花先生からの「本日の目的」説明

- ・学校建築や学校づくりに「どこでも同じ正解」はない
- ・地域社会、学校、教職員、生徒に固有の課題、目指すものや課題も複雑化している
- ・一緒に考えていきましょう！
- ・ゼロから考えるのではなく、これまでの学校建築やそこでなされてきた教育、活動、生活が、ヒント、ディスカッションのきっかけになる

(1) 自己紹介

学校建築アドバイザー（建築計画家）とは？

(2) 情報提供

●授業、活動の空間の使い方実例（生徒の居場所）

- ・海外の事例、教室空間の使われ方
- ・机の配置、並べ方、スペースがたくさん
- ・共有空間、話しやすい距離 など

※デンマークの事例（Dall & Lindhardt / A5 TEGNESTUEN / Henning Larsen）は1980年代に実現されている。

●教職員のスペース（教職員の居場所）

- ・研究室 or 大きな職員室中心とラウンジの融合
- ・教員専用ラウンジ（お茶が飲め、交流できる）
- ・大きなスペース、スタディカフェ（放課後に学びあえるスペース）などの事例を紹介

3. 感じた事を先生同士でシェアするワーク

スライドで見た空間の写真を「学びのあり方」と「教職員の居場所」に分けて6つのテーブルの模造紙に配置。参加者は気になる「空間の使われ方」について、テーブルを回遊しながら感想や共感などを記入した。

JVメンバーが各テーブルに1名つき、参加者の記述に対して「なぜ、そう感じたか？」を問い直し、さらなる叙述を促すサポートを行った。

4. 発表と講評

・それぞれ各テーブルで話された議論をJVメンバーがとりまとめ、全体に向けて発表。その内容について立花先生からコメント。

5. まとめ、今後のスケジュール共有

・平行して行っている先生方へのヒアリングや、3月から始まるWS開催についての周知。



↑JV 瀧内より趣旨と目的の説明



↑実際に使われている状況の写真は、イメージを喚起しやすい



↑テーブルを自由に動いていくスタイルで「場」が盛り上がりました



↑特に「教員ラウンジ」の活用については驚きを持って受けとめられていた



↑若い教職員とベテランとが感想を共有する姿が見られた

●先生方からの感想

模造紙への意見・コメントをまとめました。

●学びのあり方

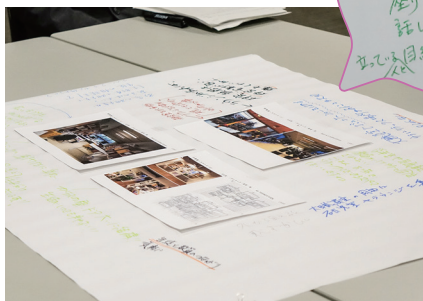
何人かで集まってやりやすいように丸いテーブルがない／高めのテーブルがあれば気軽にちょっとした話ができる／立ったまま授業を受けた方が効率が良い場合がある／オープンスペースは自由な組み合わせでワークが出来るのが魅力、適度な距離が良いと思う。／机の規格はこれまでと同じと考えるのは必要。使い勝手も考慮／空きコマがあるなら自習スペースが必要、ぜひ「空きコマ」作りたい／自分の学びやすい空間を選択できる場所がいい／オープンスペースと個別の部屋の使い方の工夫を考える必要がある

●オープンスペースについて

いろんな所から（生徒たちが）何をしているか見えるから（お互いに）興味が湧いて集まるかも！！教員からは見守り。生徒は仲間が何しているか関心がわく。／開けた空間により教室が狭くなるのは本末転倒／空調はどうなっているの？／本校でもロッカーの上の教科書の荷物が気になります。美しく、使いたくなる工夫が必要／生徒のライフスタイルは？荷物は常に持ち歩いているのか？など前提に考える必要がある。その常識を外すのもアリだと思います／明るくオープンなスペースは生徒の発表や、意見を表す場所として貴重

●教職員の居場所

カフェの様ならリラックスした雰囲気だからできる話があると思う。研究室に入室する際に緊張するような生徒と話すには良いかも。／これまでこういった概念がなかった。生徒も教員もリラックスできる空間と時間が必要／大ラウンジの用途・研究の場所の「住み分け」があると良いです！／ガラスの壁・ドア、大いに結構！生徒が来やすい／大職員室でコミュニケーションを墓る、ウラにリラックスできる場所（生徒に見られない）があることが大切



↑ 実際どうなっているの？と立花先生への質問が相次ぎました



↑ JV がテーブルファシリとして細かな疑問にも答えていきます

●総評・まとめ（ファシリテーターから）

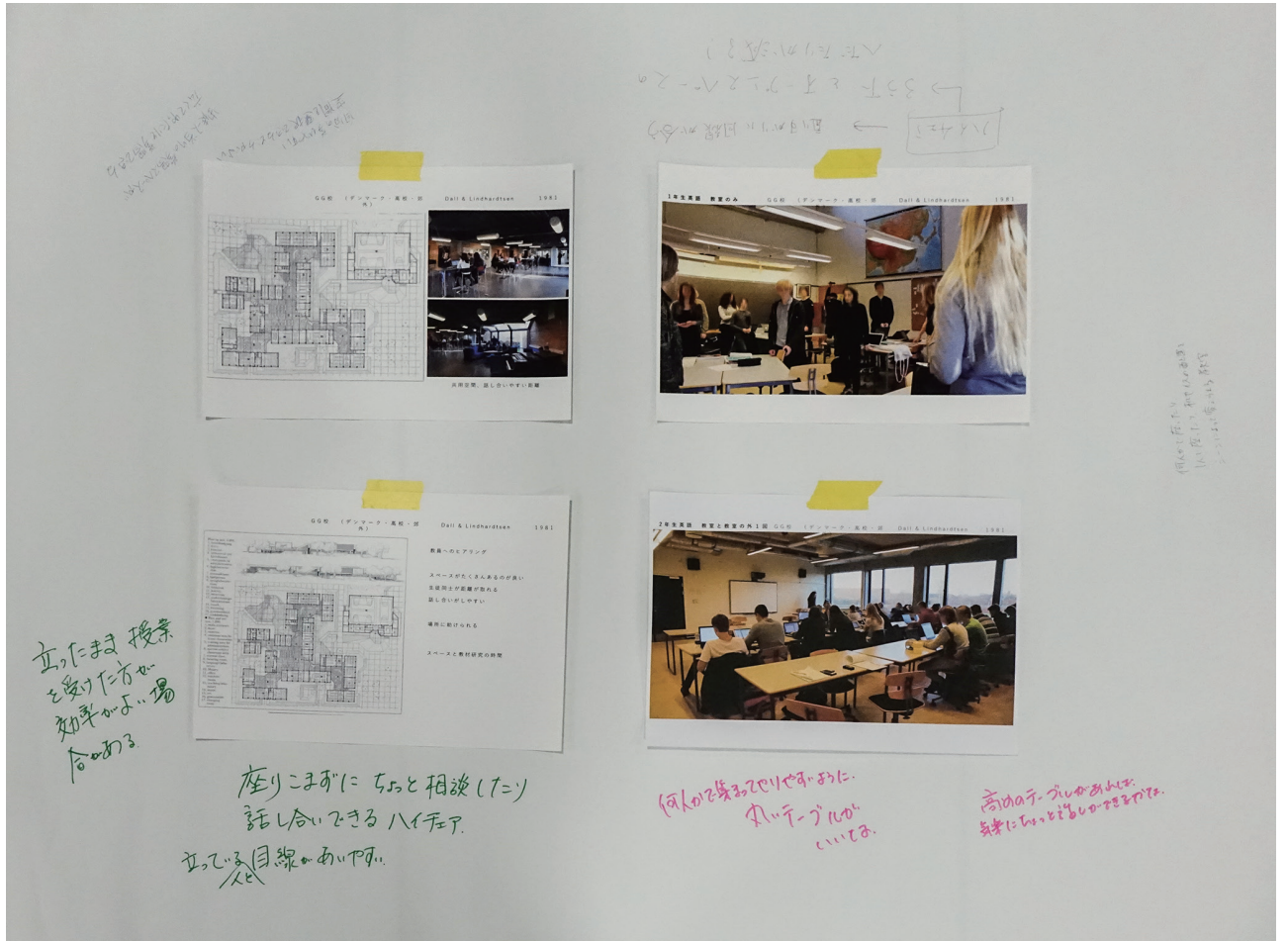
先生との対話の時間を持つ初めての機会となりました。

現場の先生が持つ数多くの知見を、新校建設に役立てていきたいと思えます。ご協力をぜひお願いします。

今日は立花先生より日本の、世界の事例を多くご提供いただきました。その素晴らしいと言われる事例と現場の知見を掛け合わせていくことで、上伊那らしい学び、上伊那のこの場所にふさわしい「進学校がどうあるべきか」が積み上げられていくのだと思えます。

ぜひ、思ったことはどんな小さなことでも、声を上げてほしいと思えます。細やかなことほど、必要なことだったりすると思えます。数多くのご意見を、まとめるのは大変ですが、あげていってください。その際に「なぜ」をぜひ添えるようにしていただきたいと思います。相反する内容に見えて、本当の根っこは同じ、ということもあります。そんな対話を続けていき、良い新校になるようご協力お願いします。

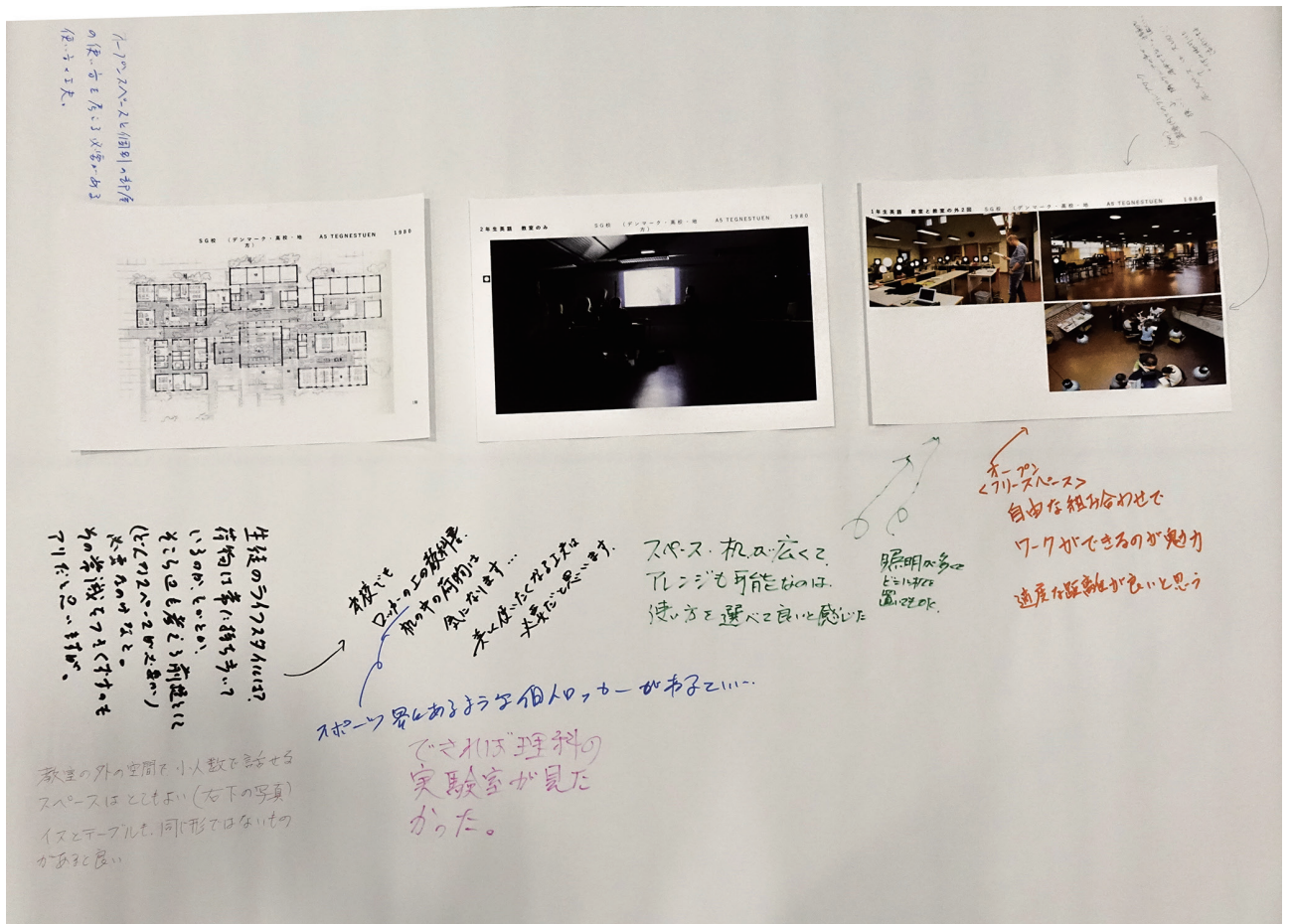
プレワークショップ「先生ワークショップ」  
Thinking&Talking about New High-School!



手前のテーブル2つは、模造紙テーマを「学びのあり方」に設定した

空間の使われ方編

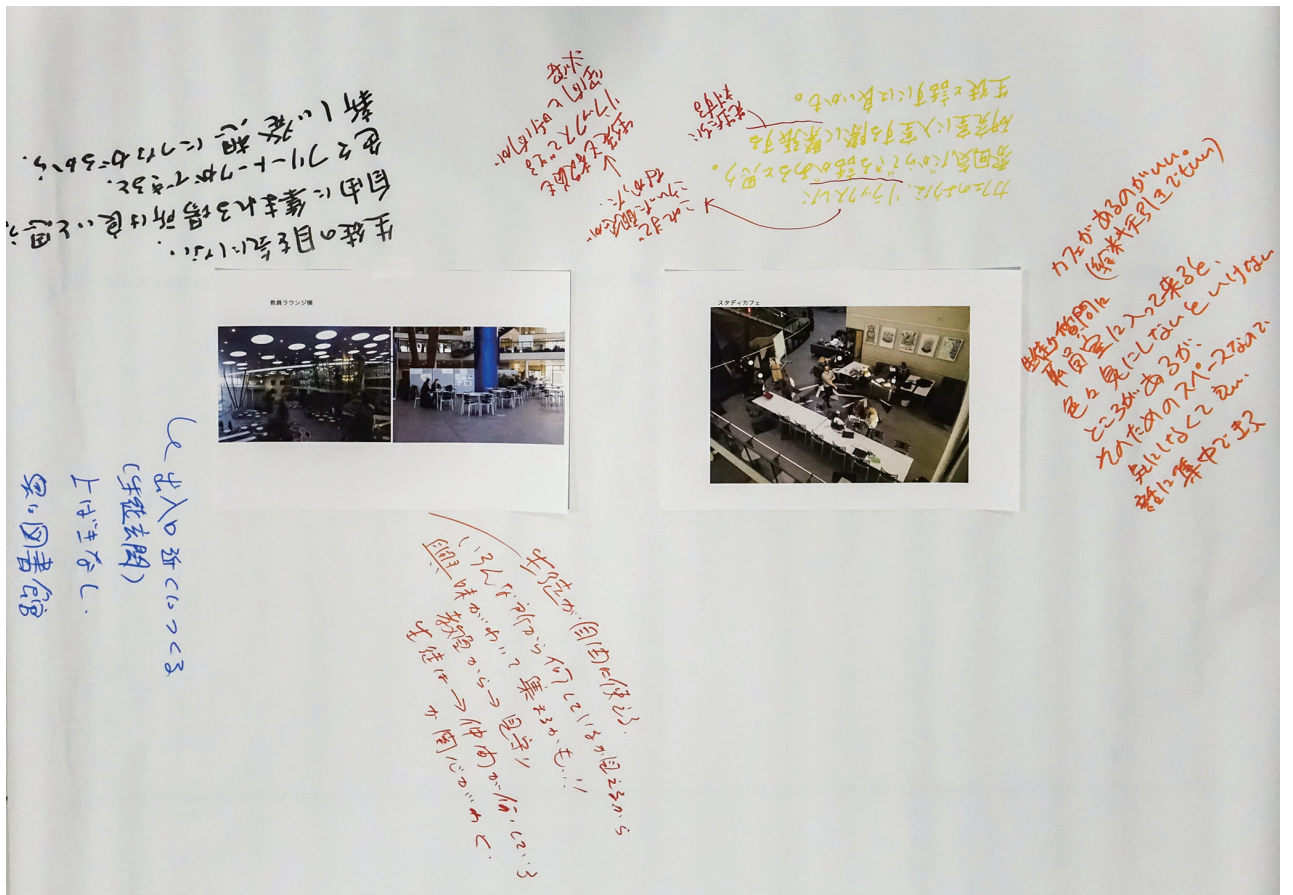
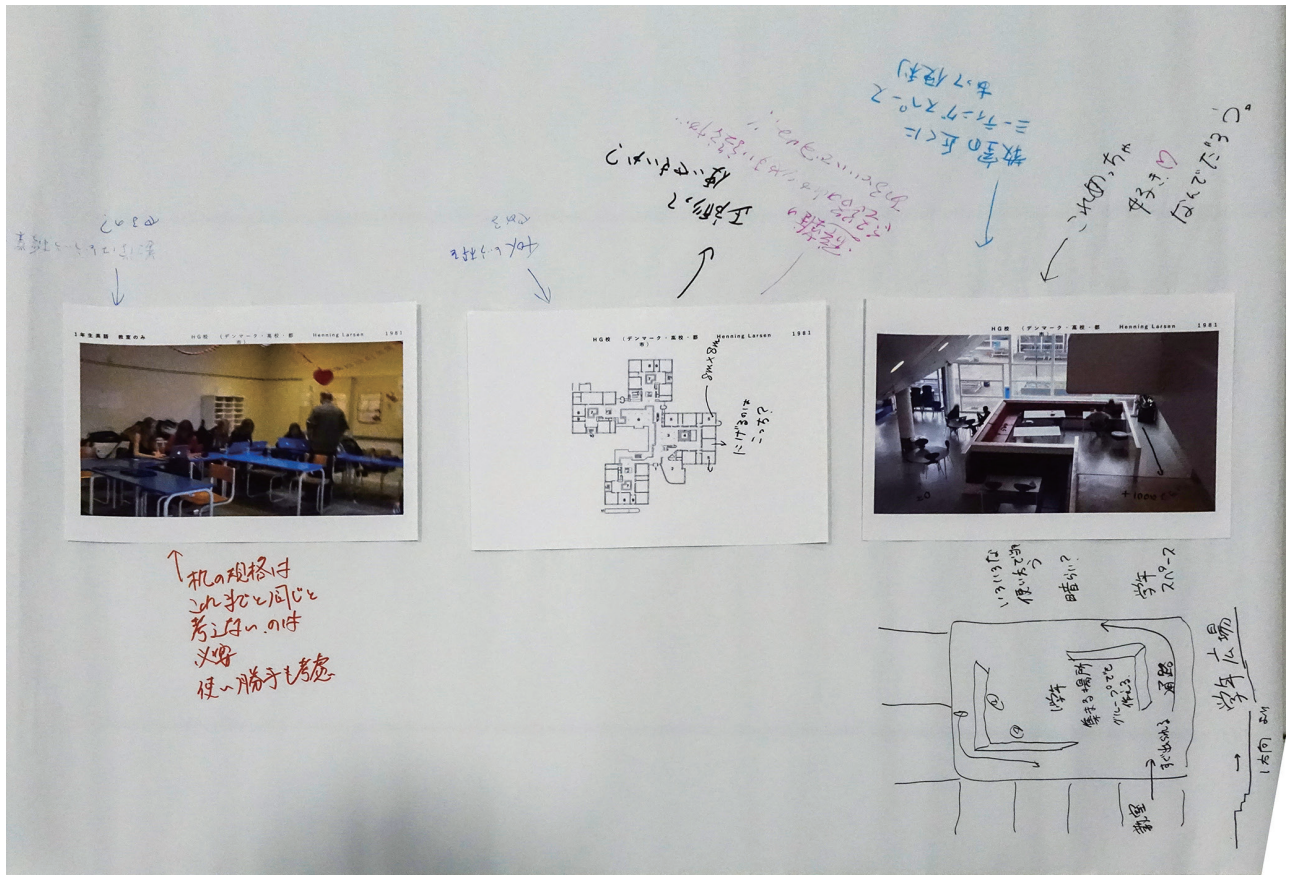
先生



プレワークショップ「先生ワークショップ」①

空間の使われ方編

先生

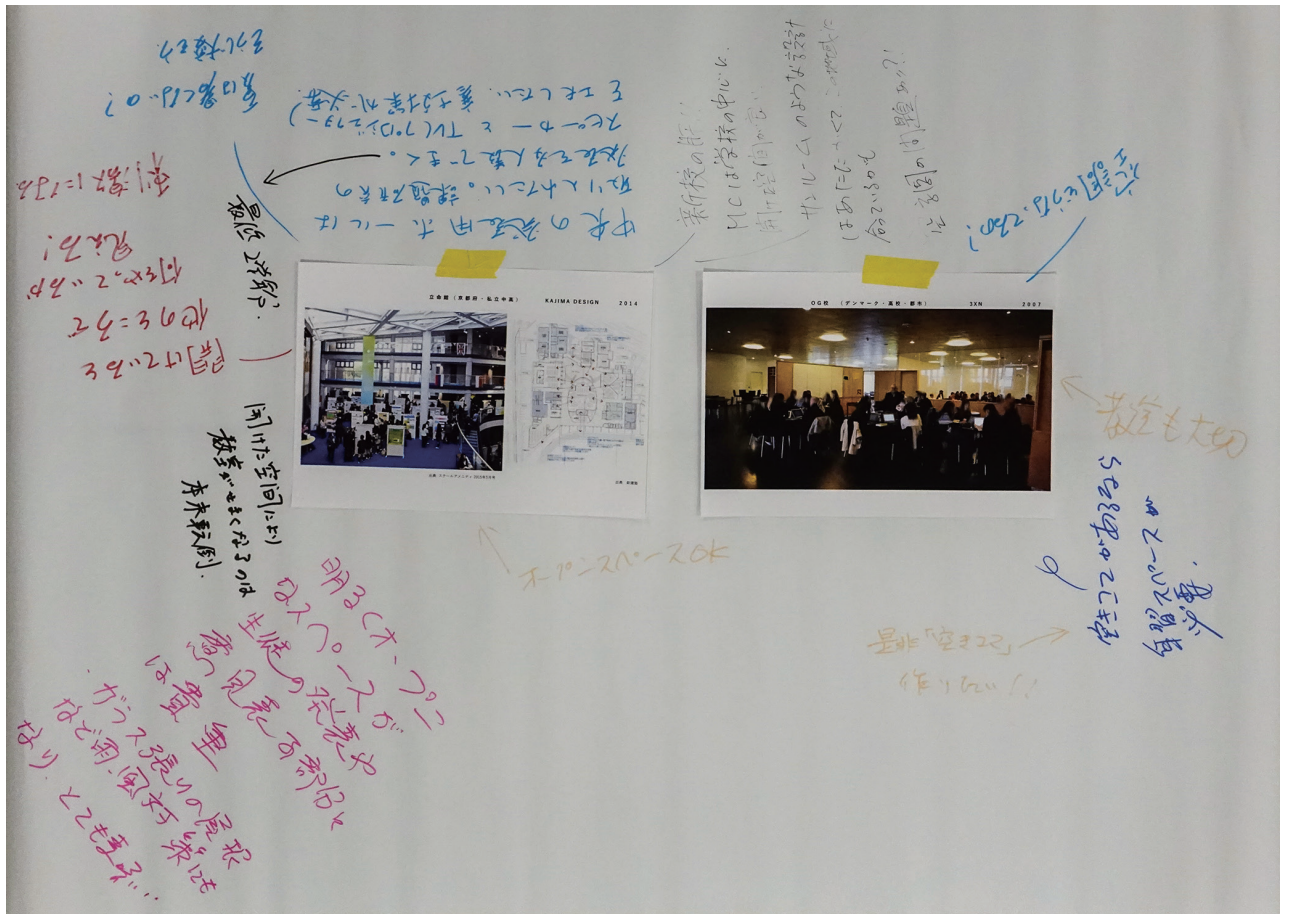


Thinking&Talking about New High-School!

プレワークショップ「先生ワークショップ」①

空間の使われ方編

先生



奥のテーブル2つは、模造紙テーマを「教職員の居場所」に設定した

